

地域農林経済学会ニュースレター

The Association for Regional Agricultural and Forestry Economics

2024. 3.25 第38号

編集・発行 地域農林経済学会 <http://a-rafe.org/2/0>

【学会事務局】〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社学会部内

TEL: 075-415-3661 FAX: 075-415-3662 E-mail: arfe@nacos.com

目次

1. 『農林業問題研究』の発刊案内…………… 2
Publication of the Journal of Rural Problems
 2. 学会活動報告（2023年度）…………… 3
Report on the Society's Activities
 3. 地域農林経済学会賞・学会誌賞選考委員会報告（2023年度）…………… 5
Report from the Award Selection Committee
 4. 地域農林経済学会賞・学会誌賞募集要項（2024年度）…………… 8
Award Application Guideines
 5. 2023年度地域農林経済学会中国支部大会の開催報告…………… 9
Report on Chugoku Branch Conference
 6. 2023年度地域農林経済学会四国支部大会の開催報告…………… 10
Report on Shikoku Branch Conference
 7. 第8回国際ワークショップ 報告要旨の募集のお知らせ…………… 11
The 8th International Workshop Call for Applications
-
-

1. 『農林業問題研究』 発刊の案内 **Publication of the Journal of Rural Problems**
1-1 第 60 巻・第 1 号 (第 233 号) 目次 **Table of Contents for Volume 60 Issue 1 (Issue 233)**

<会長講演> President's address

方法論的遺言から研究課題の遺言へ

秋津元輝 (Motoki Akitsu)

<大会シンポジウム> Symposium

「みどりの食料システム戦略」(農水省・2021) と有機農業の農業論—農の原点にも立ち戻って—
“Strategy for Sustainable Food Systems MIDORI” (MAFF 2021) and the agricultural philosophy of organic farming: Returning to the original position of agriculture

中島紀一 (Kiichi Nakajima)

有機農業の普及・拡大に向けたデンマークの政策的アプローチ

Exploring Policy Approaches for Further Development of Organic Farming in Denmark

浅井真康 (Masayasu Asai)

オーストリアにおける有機農業普及と農業環境政策

Current Status of Organic Farming Promotion and Agri-environmental Policy in Austria

石倉 研 (Ken Ishikura)

Organic Farming Systems and Rural Revitalization in Italy – Current Situation and Way Forward

Zollet Simona

<国際シンポジウム座長解題> 2023 International Symposium

Scaling up Agroecology from Policies to Practices: Emerging Policies and Contradictions in the Global North

Kae Sekine, Tadayoshi Masuda, Nina Takashino

<国際シンポジウム> 2023 International Symposium

Emerging Policies and Contradictions in the EU: A Fair, Healthy and Environmentally Friendly Food System by 2030

Marianne Penker

Emerging Policies and Contradictions in the US: The Organic Label as a Agroecological Policy Lever

Nina F. Ichikawa

Emerging Policies and Contradictions in Japan: Pathways to Agroecology within the Framework of a Production-oriented Agricultural Policy

Keiichi Ishii

<書評> Book Review

鶴川洋樹著『飼料用米の生産と利用の経営行動-水田における飼料生産の展開条件』

千田雅之

両角和夫著『合併からネットワークへー「農協改革」の課題ー』

柴垣裕司

小林富雄著『食品ロスの経済学 第4版』

波多野 豪

編集後記 Editor's Postscript

初めて常任編集委員を拝命してから1年が過ぎ、一通りのプロセスを経験しました。投稿者と査読者以外の立場として学会誌の編集に携わることで、その難しさや面白さなどを感じているところです。この2月は、乾季の東南アジアの農村で土埃りを浴びた後、隣国の都市でおそらく大気汚染の影響でスモッグに覆われた空を眺め、帰国数日後にはついに花粉症デビューを果たすという、空気を意識する出来事が続いています。つねにそこにありつつも変化している空気のように、しっかりと根付きつつも新たな視点を常に取り入れた変化のある研究や教育活動を続けていきたいものです。(KM)

2. 学会活動報告 (2023 年度) Report on the Society's Activities

第73回地域農林経済学会大会は、広島大学にて2023年10月27日(金)～10月29日(日)の3日間にわたり開催された(大会シンポジウムと国際シンポジウムについては、広島大学の会場とオンライン(Zoom 配信)のハイブリッドにて行われた)。

※詳細は学会ホームページに掲載。

<地域シンポジウム>

第1日目 10月27日(金) 14:00～16:30

「中山間地域における農業生産現場の未来を描くー広島県の取り組み事例を中心にー」

1. 座長解題：長命洋佑(広島大学)
2. 報告1：向井雅史(広島県農林水産局)
「広島県の農業振興施策における担い手育成の取組」
3. 報告2：梶森久史((株)賀茂プロジェクト)

「2階建て方式による集落営農法人の再編と地域作り」

4. 報告3：小迫高(おぐにフィールド)

「集落営農法人の連携が寄与する中山間地農業の持続的発展」

5. コメント：能美優子(JA広島中央会 営農組織支援部営農農政課)

細野賢治(広島大学)

6. 総合討議

<大会講演会>

第2日目 10月28日(土) 13:00～16:15

第73・74回大会統一テーマ

「みどりの食料システム戦略と有機農業の可能性」

第73回大会講演会テーマ

「みどりの食料システム戦略と有機農業技術

普及の課題：欧州の経験と示唆」

1. 会長講演：秋津元輝（京都大学）
「方法論的遺言から研究課題の遺言へ」
2. 基調講演：中島紀一（茨城大学名誉教授）
「みどりの食料システム戦略と有機農業の農業論－農の原点に立ち戻って－」
3. 若手講演 1：浅井真康（農林水産省農林水産政策研究所・経済協力開発機構（OECD））
「より持続可能なフードシステムに向けた EU 有機農業振興政策の貢献と課題：デンマークを事例に都市における農的空間の役割」
4. 若手講演 2：石倉研（龍谷大学）
「オーストリアにおける有機農業普及と農業環境政策」
5. 若手講演 3：Simona Zollet（広島大学）
“Organic farming development in Italy; Current situation and way forward for Italy and Japan”
6. 質疑応答

<個別報告>

- 第 2 日目 10 月 28 日（土）9:00～11:30（個別報告優秀賞対象報告を含む）
第 3 日目 10 月 29 日（日）9:00～12:30
詳細省略

<国際シンポジウム>

- 第 3 日目 10 月 29 日（日）14:00～16:00
（主催：地域農林経済学会 後援：日本有機農業学会）

Scaling up Agroecology from Policies to Practices: Emerging Policies and Contradictions in the Global North

Chair: Kae Sekine (Aichi Gakuin University)
Moderator: Tadayoshi Masuda (Kindai University),
Nina Takashino (Ritsumeikan University)

Presentation 1: Marianne Penker (University of Natural Resources and Life Sciences Vienna)
“Emerging Policies and Contradictions in the EU: A Fair, Healthy and Environmentally Friendly Food

System by 2030”

Presentation 2: Nina F. Ichikawa (Berkeley Food Institute, University of California)

“Emerging Policies and Contradictions in the US: The Organic Label as a Agroecological Policy Lever”
Presentation 3: Keiichi Ishii (Tohoku University)

“Emerging Policies and Contradictions in Japan: Pathways to Agroecology within the Framework of a Production-oriented Agricultural Policy”

Commentators: Keshav Lall Maharjan (Hiroshima University), Ryo Kohsaka (The University of Tokyo)

Discussion

<総会>

2023 年 10 月 28 日（土）16:30～17:30 に、中塚雅也氏（神戸大学）を議長として、総会が開かれた。以下に、審議内容の資料の一部を掲載する。

付 1. 地域農林経済学会 2022 年度会計報告（当期剰余金）

科目	2022 年度	2022 年度	差引額
	予算額	決算額	
	(1)	(2)	(2)-(1)
当期収入	3,874,000	4,090,591	216,591
当期支出	4,423,030	5,034,771	611,741
当期差引	▲ 549,030	▲ 944,180	▲ 395,150

付 2. 支部会・研究会について

<2022 年度活動報告>

2022 年度国際ワークショップ

開催日：2022 年 6 月 26 日（日）

場 所：オンライン開催

内 容：英語による報告 9 本

近畿支部 2022 年度大会

開催日：2022 年 9 月 2 日（金）

場 所：神戸大学農学部 B 棟 101 号室（兵庫県）

内 容：日本語による報告 10 本、英語による報告 1 本

中国支部 2022 年度大会

開催日：2023 年 1 月 18 日（水）

場 所：オンライン開催

テーマ：「定着型産業の育成と地域社会の持続性の課題—農業を事例として—」

四国支部 2022 年度大会

開催日：2023 年 1 月 28 日（土）

場 所：オンライン開催

テーマ：「高知県農山村の集落機能の低下にどう対応するか？—担い手支援・移住促進・空き家利用対策—」

<2023 年度事業中間報告>

2023 年度国際ワークショップ

開催日：2023 年 7 月 15 日（土）

場 所：立命館大学大阪いばらきキャンパス（大阪府）（オンラインと対面のハイブリッド開催）

内 容：英語による報告 10 本

中国支部 2023 年度大会

開催日：2024 年 1 月 31 日（水）（予定）

場 所：オンライン開催

内 容：「集落営農の現状と今後について」（仮：総会時点）

四国支部 2023 年度大会

開催日：2023 年 12 月 16 日（土）（予定）

場 所：徳島大学常三島キャンパス（徳島県）

内 容：「四国地域における地域・農業振興の現状と展望」（仮：総会時点）

3. 地域農林経済学会賞・学会誌賞選考委員会報告（2023 年度）

Report from the Award Selection Committee

3-1. 選考経過

(1) 学会賞の選考

①学会賞の公募

2023 年度学会賞、学会奨励賞、学会特別賞の募集を、2023 年 2 月 25 日付で会員へのメール配信と学会ホームページ上において、さらにニューズレター34号（同年 3 月 25 日発行）において会員に告知した（2023 年 5 月 31 日締切）。期日までに、学会賞 1 件、特別賞 1 件の応募があった。奨励賞については応募がなかった。応募期間の延長は行わなかった。

②選考のプロセス

推薦があった学会賞および特別賞の各 1 件について、学会事務局から推薦書と書籍を各選考

委員に送付した。ただし今回は選考委員 1 名が学会賞被推薦者だったため、当該委員は学会賞の審査からは外れていただいた。このため学会賞と特別賞の審査は別個に行い、前者は 4 名で、後者は 5 名の選考委員で行った。2023 年 7 月 18 日に第 1 回の学会賞および特別賞の選考委員会をオンラインで開催し、推薦・応募書類及び会員資格等を確認し、いずれも応募のあった各 1 件を選考対象とすることを決定した。（なお特別賞に推薦された書籍の編者 3 名のうち、2 名は正会員、1 名は非会員である。）

2023 年 9 月 19 日に第 2 回の学会賞および特別賞の選考委員会をオンラインで開催した。学会賞については、学会賞表彰規程第 1 条「農林業問題に関する優れた研究業績を公刊した本

学会会員を表彰する」、および同第2条(1)「特に顕著な研究業績を公刊した会員を対象とする」「2. 学会賞の受賞は毎年原則として1件とする」に照らして審議した結果、1件を学会賞候補とすることを決定した。また学会賞特別賞については、特別賞表彰規程第1条「本学会員の主宰するグループ、あるいは個人が公刊した地域農林経済学の発展に寄与する優れた業績を表彰する」、および同第2条「特別賞の受賞は適宜行う」等を参照に審議した結果、1件を学会賞特別賞の候補とすることを決定した。

2023年9月30日の常任理事会での審議を経て、以上を学会賞・特別賞の候補として2023年10月27日開催の理事会に報告し、その場で提案通り決定された。翌10月28日の総会において表彰を行った。

(2) 学会誌賞の選考

①選考のプロセス

学会誌賞表彰規程細則第1条により『農林業問題研究』57巻第2号(2021年6月25日刊行)から59巻第1号(2023年3月25日刊行)までに掲載された研究論文(投稿論文に限る)のうち、昨年度受賞対象となった1本を除き、3本の研究論文を対象として、選考委員長(学会賞担当副会長)と常任編集委員9名により審査を行った。選考は各委員が四段階評価と講評を事前に提出し、2023年8月2日に選考委員会をオンラインで開催し、審議を行った。

3-2. 選考結果と受賞理由

(1) 学会賞

辻村英之『キリマンジャロの農家経済経営—貧困・開発とフェアトレード—』昭和堂、2021年12月

本書は、2000年代におけるタンザニア・キリマンジャロ山中のルカニ村に関する長年にわたる詳細な農家経済経営調査に基づきその実態を明らかにするとともに、その観点からアフリカ農村に関する農家経済モデルを、私的利益

追求と社会制度の両者に配慮しながら構築することを目指したものである。

第1に、辻村氏はすでに同地をフィールドとしたコーヒーを事例とするフェアトレードの研究で高い評価を受けているが、今回は前著をふまえつつも、さらに農家経済経営の実態まで踏み込んだ分析を行った点、さらにコーヒー、トウモロコシ、牛、バナナから木材ビジネスまでアフリカ農民をとりまく多就業のありようを農家経済に即して明らかにした点が、実証的な観点からは高く評価できる。長期にわたる参与観察もさることながら、とくに現金現物日記帳の分析にもとづく農家経済経営の分析は、アフリカ農業・農村研究ではおそらく初めての試みであり、高く評価されるべきであると考えられる。

第2に、アフリカ農村研究の分析枠組みの構築にさいし、従来の日本の農業経営学の方法論を援用しつつも、その限界をふまえて、これを「制度派」農家経済経営学として刷新した点が評価できる。この点は第二部の実証的分析においても、私的な経済追求の行動や学校教育など市場化・近代化への対応が、アフリカ農村の特有の要素(例えば男性産物や女性産物など)とどのように絡み合っているかを具体的に明らかにしえたことにつながっている。さらに農家経済を取り巻く社会制度との関わりまで視野に入れることでルカニ村の農家経済をトータルに理解することを可能にした。

ただし第1部の理論的な枠組みを検討した各章については、込み入った概念図が多用されていることなど一般読者には理解しづらく、なお理論的な面でのより一層の整理が求められるのではないかと、さらにはデータの数や記載(誤記)に関して改善の余地があるのではないかとという見解があったことを申し添えておく。

なお辻村氏はすでに前著『コーヒーと南北問題—「キリマンジャロ」のフードシステム—』

(日本経済評論社、2004年2月)において、2005年地域農林経済学会賞を受賞しており、今度が2回目の学会賞の受賞になる。これに関しては、

上記のように調査対象が同じ地域であっても前作の受賞作とは異なる別個の研究業績とみなせること、複数回受賞については前例があること（山口三十四会員が2016年と2021年に受賞、但しいずれも共著）、および学会賞表彰規程、同表彰規程細則において複数回の受賞を認めない旨の条項はないこと、以上の点から受賞候補作とすることに問題はないと判断した。

(2) 学会奨励賞
推薦なし。

(3) 学会特別賞

杉村 和彦・鶴田 格・末原 達郎 編

『アフリカから農を問い直す—自然社会の農学を求めて』京都大学学術出版会、2023年2月

本書は、日本の農学分野におけるアフリカ農業・農村の人類学的研究を牽引してきたグループによる研究成果の集大成ともいえる共著書である。各執筆者のアフリカ農業・農村に対する関わり方には若干の濃淡がみられるものの、執筆者の多くは現地での参与観察に基づく長期にわたる調査研究の経験をもっており、本書もその成果が如何なく発揮されている。本書で強調されている混作、焼畑、「分与の経済」、農牧民、移動性などの着目に示されるアフリカ農業・農村の特異性に関する理解の仕方はこのグループによるオリジナルな知見として従前より高く評価されてきたものであるが、さらに今回の書籍の第2部「アフリカ農業・農村の特性把握」に収められた各章において、アフリカ農村を知る上で豊富な知見が新たに示されている点も注目される。総じて本書は現在のアフリカ農村研究の一つの水準を示すものであり、今後のアフリカ農業研究を志す者へのインパクトも大きいことから、学会賞特別賞候補に十分値する。

理論的な面における本書の主張の新しさは、

アフリカ農村の特性を明らかにするにとどまらず、これをアグリアン社会に対する自然社会としてとらえ、さらにその視点から近代農学・近代農業批判はもとより、これを越えて、より根本的な「農業社会」批判の視点を押し出した点である。これに関しては大胆で刺激的な仮説の提示として評価できるものの、現時点では根拠が乏しく説得力が不足しているとの意見が多数であった。また近代農学批判の視点の提出に関しても、概ね1980年代以降に提出されてきた批判の枠組みをおおきく刷新したとはいえず、また批判対象とされている近代農学に関する理解もむしろ通説的なものにとどまっているのではないかと、との見解も出された。さらにアフリカ農業・農村の特殊性に基づく「肯定的側面」を過度に強調するあまり、今日の市場経済の浸透の中で経済的利益を追求するアフリカ農業・農村の現実を過小評価しているのではないかという疑問も出された。以上の点は、本書は長年の実証に基づくオリジナルな新知見の集大成でありながら、他方でアフリカ農村に関する議論を活性化させることを狙った論争の書として出版されたことを物語っている。そうした二重の意味で本書は地域農林経済学研究の発展に十分寄与するものと評価でき、学会賞特別賞候補に相応しい業績であると判断した。

(4) 学会誌賞

・審査結果：該当無し。

・審査所見：選考委員会では、学会誌賞表彰規程の「農林業問題研究」に発表した研究論文の中から、とくに優れた論文を執筆した会員を表彰する」、および「学会誌賞」の受賞は、研究領域の拡がりや考慮しつつ、毎年原則として2件とする」という基準を参照しつつ慎重に協議を行った。その結果、「とくに優れた論文」として推薦できる論考はないとの見解が選考委員の多数を占めたことから、今回は「該当無し」

という結論に至った。

3-3. 総評と留意事項

今回、学会賞・特別賞の候補作品とも、すでに研究実績のあるシニア研究者を中心とするアフリカ農業研究の分野に属するものであった。分野の偏りは今回限りと思われるが、奨励賞の推薦がなかったこと、学会誌賞が「該当無

し」となったことなど、若手研究者への奨励という点では課題を残すものとなったと言わざるを得ない。学会誌への積極的な投稿はもとより、学会賞奨励賞への推薦をより積極的に働きかけることが重要と思われる。

足立芳宏

(学会賞・学会誌賞選考委員会委員長)

4. 地域農林経済学会賞・学会誌賞募集要項 (2024 年度)

Award Application Guideines

2024 年度の学会賞・学会奨励賞および特別賞の候補者の推薦の受け付けを行っています。受賞対象に関しまして以下の点にご留意頂き、幅広く積極的なご推薦お願い申し上げます。

①すでに別の学会で受賞されている研究業績に対しましても、本学会としての独自の観点から高く評価できる場合は、受賞の対象といたします。

②地域農林経済学会特別賞の規程第 3 条における「会員が主宰する研究グループが公刊した研究書」とは、主宰者を中心に体系化して取りまとめた研究書を指します。

(1) 学会賞・学会奨励賞授賞候補者の推薦について

1. 会員は推薦する受賞候補者の (i) 著書、論文または調査研究報告書を 5 部、(ii) 地域農林経済学会賞候補者推薦状を 7 部、学会事務局中西印刷株式会社内地域農林経済学会賞選考委員会宛に提出する。ただし、これらは審査後も返却しない。推薦者は会員 1 名以上 (自薦を含む) によるものとする。

2. 提出締切

2024 年 5 月 31 日(必着) とする。

3. 選考の対象とする研究業績

2022 年 4 月～2024 年 3 月末日までに刊行さ

れたものとする。

4. 奨励賞授賞候補者は当該業績刊行時点で 40 歳未満のものとする。

5. 地域農林経済学会賞授賞候補者推薦状用紙は、本学会 HP よりダウンロードするかもしくは学会事務局中西印刷株式会社内地域農林経済学会賞選考委員会宛に申し込むこととする。

(2) 特別賞授賞候補者の推薦について

1. 会員は推薦する受賞候補業績の (i) 著書、論文、その他を 5 部、(ii) 地域農林経済学会特別賞候補業績推薦状を 7 部、学会事務局中西印刷株式会社内地域農林経済学会賞選考委員会宛に提出する。ただし、これらは審査後も返却しない。推薦者は会員 1 名以上 (自薦を除く) によるものとする。

2. 提出締切

2024 年 5 月 31 日 (必着) とする。

3. 選考の対象とする研究業績

2022 年 4 月～2024 年 3 月末日までに刊行されたものとする。

4. 地域農林経済特別賞授賞候補者推薦状用紙は、本学会 HP よりダウンロードするかもしくは学会事務局中西印刷株式会社内地域農林経済学会賞選考委員会宛に申し込むこととする。

5. 2023 年度地域農林経済学会中国支部大会の開催報告

Report on Chugoku (Western Honshu) Branch Conference

2023 年度の地域農林経済学会中国支部大会（幹事校：島根大学）は、2024 年 1 月 31 日（水）に、オンラインで開催された。テーマは「集落営農の現状と今後の展望」である。

本大会は、秋津元輝会長（京都大学）の開会挨拶の後、講演（1 件）と報告（2 件）がなされた。まず「集落営農の現状等」というテーマで、溝手珠美氏（中国四国農政局）による講演が行われた。中国地方における集落営農の現状と特徴、それに対する国の支援事業の概要について紹介された。講演後の質疑応答では、島田悦作氏（岩手県立大学）が集落営農と環境との関わりに関するコメントを行った。

第 1 報告は、野田爽仁氏（島根大学大学院・修士課程 2 年）が「「新島根方式」の理念と島根県農政への影響」というテーマで報告を行った。集落営農の原点とされる「新島根方式」の発足の経緯、理念、内容等について説明がなされた。

第 2 報告は、ロサリア・ナタリア・セレキー氏（島根大学）が「Characteristics of the Farmer Group in Indonesia -A Case Study of Bambanglipuro District, Yogyakarta Province-」というテーマで報告を行った。インドネシアのジ

ョグジャカルタ特別州バンバンリプロ地区を事例に、同国の営農集団「クロンポク・タニ」の特徴やリーダーの役割等に関する説明がなされた。

以上の講演・報告の後、保永展利氏（島根大学）をファシリテーターに迎え、総合討論が行われた。まず、話題提供として中川治氏（JAしまねやすぎ地区本部）より、島根県安来市における集落営農の現状および課題について説明された。さらに、報告者 2 名に対して質疑応答が行われた。とくに注目が集まったのは、集落営農のリーダーシップに関する話題であった。集落営農はカリスマ性を持った人物によって運営されていることが多く、それ故に世代交代が難しい点が指摘された。中山間地域において集落営農を継続していくためには、後継者の確保に加え、組織をどのように運営していくかが重要であることが再認識された。

最後に、森佳子氏（島根大学・司会）が全体を総括し、閉会挨拶を行った。

島根大学 中間由紀子
Shimane University Yukiko Nakama

6. 2023 年度地域農林経済学会四国支部大会の開催報告

Report on Shikoku Branch Conference

2023 年度の四国支部研究会（第 59 回）は、徳島大学常三島キャンパスにおいて開催しました（2023 年 12 月 16 日）。

今回、研究会のテーマを「四国地域における地域・農業振興の現状と展望」とし、四国域内の事例研究報告として研究者・大学院生の 3 名の報告を設けました。まず、座長を兼務する徳島大学生物資源産業学部の橋本が、総論的に四国地域における地域・農業振興の現状について確認しました。詳細にみれば県毎・地域毎の地域・農業の動向は異なることは自明ですが、四国の地域農林業の現局面を概観し、農業のみならず農村・地域経済を包括する振興が喫緊に必要な点を提起しました。なお、この点がテーマの題目に地域農業ではなく地域・農業振興とした所以です。続けて個別題目として橋本が「徳島県農業の地域別展開と中山間地域における諸動向」を報告しました。徳島県を対象に徳島県農業の地域別動態・展開について整理し、中山間地域に所在する阿南市加茂谷地区の住民主体となった地域・農業振興の取り組みを分析しました。当地域は、住民主体の精力的な取り組みにより多数の移住者・新規就農者の誘致に成功した地域です。スーパーのインショップ向け野菜生産・販売の寄与や、現在進行形の農村 RMO 事業の動向について地域・農業振興の側面より分析しました。

続けて、松浦啓一郎氏（徳島大学大学院生物資源学域・博士前期課程）により「徳島県西部地域における世界農業遺産認定と関係組織の地域・農業振興への対応」の題目の報告がありました。当報告では、地域・農業の活性化への

寄与も期待される世界農業遺産（：GIAHS）認定に注目し、地域農業の維持が喫緊の課題となっている徳島県西部地域（：にし阿波地域）における GIAHS 認定と、関係組織（：自治体および農協）における地域・農業振興の関連・非関連について分析しました。今後の地域・農業振興に際しては関係組織による一層の協働・対応が不可欠となる点に言及しました。なお、当原稿の執筆者の橋本（徳島大学生物資源産業学部）との共同報告でありました。

第 3 報告は、山藤篤氏（：愛媛大学社会共創学部）より「四国地方の花弁栽培における地域農業の役割—生産と消費の構造比較より—」の題目の報告を頂きました。具体的には、花弁の需要特性の変化と愛媛県の需要動向を踏まえ、松山市卸売市場における取引動向と、愛媛県における花弁生産・産地形成の展開方向に関する検討が行われました。個人的には、花弁生産が地域農業の振興に寄与するのか、どのような方向性の対応を採るべきなのか等、市場・流通の動向を踏まえた上での意義のある検討と感じました。

大会開催の時期や周知が遅れたこと等もあり、参加者はごく少数に留まりましたが、お陰様で充実した研究会になったと思います。4 年後の研究会に向けても構想・準備を進めていきたいと考えます。

橋本直史（徳島大学生物資源産業学部）

Naoshi HASHIMOTO

Graduate School of Bioscience and Bioindustry
Tokushima University

7. 第8回国際ワークショップ 報告要旨の募集のお知らせ

The 8th International Workshop Call for Applications

【Outline of the event】

Date: Saturday June 29, 2024

Venue: Meijo Koen Campus, Aichi Gakuin University (Nagoya, Aichi)

Room TBC (Hybrid with Zoom)

Language: English

Participation fee: Free

Deadline for application: Friday May 10, 2024

We are pleased to invite the members of the Association for Regional Agricultural and Forestry Economics (ARAFE) to present your latest studies at the 8th International Workshop to be held on Saturday, June 29, 2024 at Aichi Gakuin University. The objective of this workshop is to encourage our members, from graduate students to established researchers, to write, present, and discuss their work in English, which will be an essential step towards other international conferences and internationalization of our association. If there are some non-members of the Association who are interested in presenting their papers near you, please encourage them to do so with your recommendation.

The papers for this workshop are expected to be studies of regional agricultural and forestry economics, management, sociology, history, and other related social sciences. Wide disciplines and approaches, econometrics and non-econometrics, quantitative and qualitative approaches, theoretical and experimental analyses with case studies, and field surveys, are all welcome.

We intend to organize the workshop as a hybrid of online (Zoom) and in-person. The venue will be Aichi Gakuin University (Meijo Koen Campus). For

details, please refer to the announcement on the ARAFE website. Those who wish to present their work are expected to fill in the necessary items to the Google Form as linked below by **Friday, May 10, 2024**:

<https://forms.gle/Xm6JR7TmjfFc7Vhc9>

- Family Name, Given Name
- Affiliation
- Title
- Contact Tel
- Contact Email
- ARAFE Member / Non-member
- If you are non-member, write the member's name who recommend you
- Abstract (300-500 words)

Note. Please strictly adhere to the word limit.

The selected presenters must submit their handouts, e.g., PowerPoint Slides and short papers of 3,000-5,000 words/paper by Wednesday, **June 19, 2024**. To have better discussions, the handouts will be circulated among participants on the day of the workshop while the short papers will be shared with the chairs and commentators beforehand. The presentation will be of 20 minutes and a discussion of 15 minutes will follow. Presenters should prepare digital presentation materials (e.g. PowerPoint slides) for the hybrid online and in-person presentation. The presented papers are welcome to be submitted to the Journal of Rural Problems for review or revised for a presentation at the annual conference of the Association. The first author and

the corresponding author must be a member of the Association to submit a paper for review of the Journal or present at the annual conference. The author(s) whose paper(s) presented in the ARAFE International Workshop are being published or accepted for publication in Journal of Rural Problems published by the ARAFE or international journals with impact factor indexed in Web of Science shall be awarded a subsidy of the ARAFE. Please contact Assoc. Prof. TAKASHINO for more details.

After the International Workshop, we will organize a buffet party in the cafeteria in the campus. Please join us to communicate further and network with each other.

If you have any queries, please contact us. We are looking forward to your contributions!

Zoom URL

<https://ritsumeai-ac-jp.zoom.us/j/94971303032?pwd=eDVMN2gzSjVlRVFTVlFscTBUMUxSdz09>

Meeting ID: 949 7130 3032

Passcode: 239981

Executive Board Members for
Internationalization of the Association for Regional
Agricultural and Forestry Economics

Prof. SEKINE Kae (Aichi Gakuin University)

Assoc. Prof. MASUDA Tadayoshi (Kinki University)

Assoc. Prof. TAKASHINO Nina (Ritsumeikan University)

Contact: ninat@fc.ritsumeai.ac.jp

【開催概要】

開催日：2024年6月29日(土)

会場：愛知学院大学 名城公園キャンパス
(愛知県名古屋市)

教室未定 (Zoom とのハイブリッド開催)

使用言語：英語

報告要旨の締め切り：2024年5月10日(金)

参加費：無料

平素より本学会の活動にご協力頂き、ありがとうございます。この度、地域農林経済学会は第8回国際ワークショップを下記の要領で2024年6月29日(土)に、愛知学院大学(名城公園キャンパス)にて開催することになりました。本ワークショップは、大学院生から経験豊かな研究者までの会員に研究成果を英語で執筆、報告、議論する場を提供し、国際学会における報告に向けたステップアップや本学会の国際化に資する目的で実施しています。ぜひこの機会に、会員の皆様の研究成果を発表ください。また、もし皆様の近くに本学会の非会員で報告を希望される方がいましたら、非会員でも報告できますので、ぜひご推薦ください。

本ワークショップでは、地域農林経済学、経営学、社会学、歴史学、および関連する社会科学の研究報告を募集しています。また、計量・非計量手法、量的・質的アプローチ、理論的分析、ケーススタディやフィールド調査にもとづく実証的分析などの幅広い研究報告を対象としています。

今年度のワークショップはオンラインと対面のハイブリッド開催となります。会場は立命館大学(キャンパス未確定)を予定しています。詳細については学会ウェブサイトをご確認ください。報告を希望される方は、**2024年5月10日(金)**までに以下のリンクから Google Form に必要事項を入力下さい：

<https://forms.gle/Xm6JR7TmjfFc7Vhc9>

- Family Name, Given Name 氏名
- Affiliation 所属
- Title 報告タイトル
- Contact Tel 連絡先電話番号
- Contact Email 連絡先 E-mail
- ARAFE Member 会員 / Non-member 非会員
- If you are non-member, write the member's name

who recommend you 非会員の場合には推薦者氏名
- Abstract 要旨 (300-500 words 単語)

Note. Please strictly adhere to the word limit.

単語数範囲厳守下さい。

採用された報告者には、**2024年6月19日(水)**までにパワーポイント等の報告資料および予稿を送って頂きます。本ワークショップの議論を充実したものとするために、参加者には当日、報告資料を読めるように共有します。予稿(3,000-5,000 単語/本)は、座長およびコメントーターのみと事前に共有します。

本ワークショップの1報告当たりの報告時間は20分、議論の時間は15分です。報告内容を元に本学会誌に投稿、または改訂の上で本学会の大会個別報告で報告頂ければ幸いです。学会誌への投稿または大会個別報告での報告の際には、筆頭著者および責任著者が本学会の会員である必要があります。地域農林経済学会の国際ワークショップで発表した内容を基にした研究論文を、本学会誌『農林業問題研究』またはWeb of Scienceのインパクトファクター付き英文学術誌に英語論文として投稿し、掲載決定した場合、執筆者に対して地域農林経済学会か

ら補助金を支給します。詳しくは高篠までお問い合わせください。

国際ワークショップ終了後は、キャンパス内のカフェテリアで立食式の懇親会を開催する予定です。ぜひこの機会に親交を深めていただき、ネットワークづくりに役立てていただければ幸いです。

本ワークショップに関するご質問等がございましたら、Eメールにてお問い合わせください。以上、よろしく申し上げます。

Zoom URL

<https://ritsumeai-ac-jp.zoom.us/j/94971303032?pwd=eDVMN2gzSjVIRVFTVlFscTBUMUxSdz09>

Meeting ID: 949 7130 3032

Passcode: 239981

地域農林経済学会 国際化担当常務理事
関根 佳恵 教授 (愛知学院大学)
増田 忠義 准教授 (近畿大学)
高篠 仁奈 准教授 (立命館大学)
問い合わせ先 : ninat@fc.ritsumeai.ac.jp

編集後記 Editor's Postscript

会員相互のよりよいコミュニケーションにむけて、皆様からのご意見やご要望、ご提案をお待ちしております。組織・広報担当常任理事(柴崎浩平 shibazaki.k@shse.u-hyogo.ac.jp または長命 洋佑 chomei@hiroshima-u.ac.jp)まで、積極的にお知らせ下さい。(柴崎)

地域農林経済学会ニューズレター 第38号

発行日：2024年3月25日

ARAFE Newsletter No.38

Mar.25 2024

発行者：地域農林経済学会常任理事会(組織・広報担当)
